徳山工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語表現法

科目基礎情報

科目番号	0001	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	機械制御工学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	テキストは用いない。「学習シート」「小論文（添削済み）」をファイルに綴じ込むことで、一冊のテキストとする。		
担当教員	一色 誠子		

到達目標

文章の構成や組み立てを意識して文章を作成すること、実作と添削の中で各自が文章作成にあたっての自己の課題点を見つけそれを解決することを目標とする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
	「文章の構成法」、「文の三原則」などの基本的な事項を理解し、より論理的な小論文を書くことができる。	「文章の構成法」、「文の三原則」などの基本的な事項を理解し、小論文を書くことができる。	「文章の構成法」、「文の三原則」などの基本的な事項を理解した小論文を書くことができない。
	意見の裏づけとなる根拠を資料を正しく用いて、自身の意見を論理的に書くことができる。	意見の裏づけとなる根拠を資料を正しく用いて、自身の意見を集約し表記することができる。	意見の裏づけとなる根拠を資料を正しく用いて、自身の意見を集約し表記することができない。

学科の到達目標項目との関係

JABEE f
到達目標 A 2

教育方法等

概要	本授業では、論理的な思考に基づく論理的な日本語表現（記述力）を高めることを目標とする。まず、自身の日本語力・日本語表現能力を確認し自覚することから始める。また、論理力を高めるための準備として、文の構成や組み立ての分析・読解を実施し、論理的な文章を書くための基礎的な事項を理解することを求める。そして、小論文の作成と添削を繰り返すことによって論理的な日本語表現法を身につける。
授業の進め方・方法	論理的な文章を書くための基礎的な事項を、講義と文章の読解と分析作業で進める。また、小論文作成によって実践応用していく。毎時間の自学・自習の内容については、学習シートで実施状況を定期的にチェックをする。特に、予習として小論文作成のための準備シートは必須とし、小論文と共に提出を求める。復習として、演習問題課す。
注意点	日本語の運用能力を確認するため「日本語検定」の受検を奨励する。なお、授業時には、国語辞書（電子辞書可）を携帯しておく。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	授業の概要と進め方について 小論文とは	シラバスを用いて、授業概要、到達目標、成績評価方法を理解することができる。 小論文と作文の違いを、説明することができる。
		2週	読み、考え、言語化する（１） ――「まわし読み新聞」という手法　①　グループワーク	「まわし読み新聞」の手法を理解し、新聞からの情報収集と情報の再編をグループで討議しながら実践することができる。
		3週	読み、考え、言語化する（２） ――「まわし読み新聞」という手法　①　グループワーク	「まわし読み新聞」の手法を理解し、新聞からの情報収集と情報の再編を、１回目のワークを踏まえてグループで討議しながら実践することができる。
		4週	事実と意見の書き分け	「事実と意見の書き分け」を、例文の読み取りから理解し、説明することができる。
		5週	文章の構成法	「段落」と「明確なアウトライン作成の三段階」について理解することができる。
		6週	文の三原則（１） 正確な文章を書くには	文の構成を理解し、主語と述語の関係を例文の書き直しをすることで、正確な文章にすることができる。
		7週	文の三原則（２） 明快な文章を書くには	文中の語句と語句との関係や、句読点の役割について理解することができる。また、例文の書き直しをすることで、明快な文章にすることができる。
		8週	時事問題の取り扱い方　（１）	時事問題をどのように取り扱い、小論文を作成するのかについて理解することができる。
	4thQ	9週	小論文①　意見文（時事問題）	「事実と意見の書き分け」、「文章の構成法」、「文の三原則」を意識した小論文の作成のための準備をすることができる。
		10週	小論文①　意見文（時事問題）	「事実と意見の書き分け」、「文章の構成法」、「文の三原則」を意識した小論文を作成することができる。
		11週	文の三原則（３） 簡潔な文章を書くには	「一文の長さ」、「接続詞」、「指示語」、「つなぎ言葉を使わない接続法」について理解することができる。また、例文を直すことで理解を深めることができる。
		12週	時事問題の取り扱い方　（２）	小論文①での時事問題の取り扱い方について、返却された準備シートと小論文をもとに検証することができる。
		13週	小論文②　意見文（時事問題）	時事問題の取り扱い方の検証を踏まえ、自身の意見と根拠を明確にした小論文の作成のための準備をすることができる。
		14週	小論文②　意見文（時事問題）	自身の意見と根拠を明確にした小論文を作成することができる。
		15週	学習事項の確認テスト	

		16週	まとめ	小論文、学習事項の確認テスト返却と解説を踏まえ、学習内容の理解を深めことができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	4	
				代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	4	
				文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	4	
				文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	4	
				鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	4	
				読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	4	
				現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	4	
				情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	4	
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想･思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	4	
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	4	
				社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	4	

評価割合

	小論文	小論文準備シート	グループワーク	確認テスト	合計
総合評価割合	80	5	5	10	100
総合的能力	80	5	5	10	100